

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32665

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12269

研究課題名（和文）日本舞踊家初代吾妻徳穂アーカイブ作成のための調査研究

研究課題名（英文）Investigative research for the creation of an archive of Tokuho Azuma, the Japanese traditional dancer

研究代表者

西国領 君嘉（NISHIKOKURYO, Kimika）

日本大学・芸術学部・研究員

研究者番号：50813234

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本舞踊家初代吾妻徳穂の生涯における舞踊活動をアーカイブ化するため、吾妻流事務所や国内外における現存する資料の収集と、初代徳穂の生前を知る関係者からのインタビュー調査を主軸に、初代徳穂の活動の軌跡をたどり、舞踊に対する意識や思想の調査と、現在に渡り吾妻流の中に継承される舞踊から見る初代徳穂の舞踊観の考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本舞踊家初代花柳寿美や二代目花柳壽應など、生涯における舞踊活動を、研究者や門弟がまとめ、非売品の文献として発行しているが、初代吾妻徳穂の舞踊活動は未だなされていない。初代徳穂は、国内外での舞踊活動が活発であったが、中でも功績とも言えるアツマ・カブキについて、公演内容についてはあまり知られていなかった。本研究では、二度にわたるアツマ・カブキについて、国外出張によるインタビュー調査から知見を深めることができ、特に第1回アツマ・カブキの概要を紹介できる資料を作成することができた。ただし、これは初代徳穂の舞踊活動一部にすぎない。従って、今後も継続した調査が必要である。

研究成果の概要（英文）：In this research, in order to archive the dance activities of Tokuho Azuma, the founder of Japanese dance, we will collect existing materials from the Azuma-ryu office and in Japan and overseas, and conduct interviews with people who knew about Tokuho's life. With this as the main axis, I traced the trajectory of Tokuho's activities, investigated his awareness and thoughts about dance, and considered his view of dance as seen from the dance that has been passed down in the Azuma school to the present day.

研究分野：日本舞踊

キーワード：初代吾妻徳穂 日本舞踊 新舞踊運動 アツマカブキ

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

日本舞踊は伝統芸能と言われているにも関わらず、その言葉の意味は広義で、古典舞踊・創作舞踊、歌舞伎舞踊・御祝儀舞踊・上方舞など様々あり、表現者も日本舞踊家、歌舞伎俳優、舞妓・芸妓などが存在し、現代人の殆どが着物を着て扇子を持つ踊りとししか認識していない。従って、まず現代の日本舞踊が確立した原点に立ち返り、日本舞踊の概念を究明する必要があると考えた。

2. 研究の目的

日本舞踊の概念を究明するため、先ず今日の日本舞踊界を確立させたとされる新舞踊運動に遡り、そこで活躍した女性舞踊家の中から日本舞踊家初代吾妻徳穂に着目した。初代徳穂は、女性の舞踊に特化し、独自の舞踊活動を革新的かつ従来の歌舞伎舞踊作品に準じる古典に回帰した発想で、自身の舞踊活動を展開していた。また、日本舞踊家が数多く所属する公益社団法人日本舞踊協会では、昭和50年から5期に渡り、日本舞踊界の中心とされる東京の地で支部長を勤め、リーダーシップをとり、後進の日本舞踊家に影響を与えた人物である。その舞踊観の考察と舞踊技術での継承の他、生涯における舞踊活動をアーカイブ化し、活動の流れを察知することで、日本舞踊の本質を見直し、日本舞踊の定義を明確にすることを目的とした。

3. 研究の方法

初代吾妻徳穂の舞踊活動のアーカイブ化のため、国内外に現存する初代徳穂の著書、雑誌の寄稿といった初代徳穂自身が書いた文献と、初代徳穂へのインタビュー記事、公演プログラム、振書（舞踊の振りを記した個人の覚え書き）を含む舞踊台本、記録写真、実際に舞台上で使用された衣裳等、舞踊活動を知ることができる公演資料、また、アヅマ・カブキや、他公演で使用された音源、ラジオ出演等の音声記録、舞踊活動後期にあたる「三趣の会」「徳穂の会」舞踊公演の記録映像、これらの資料収集と閲覧を行った。主な調査場所は吾妻流事務所と国会図書館であったが、その他、本研究により、米国ロサンゼルス州、京都府への出張の実現により、吾妻流事務所に貯蔵されていない資料も調査することができた。

また、後継者である二代目吾妻徳穂氏、吾妻徳陽氏、初代徳穂の義娘にあたる吾妻花舟氏、吾妻流幹部4名、吾妻流門弟、海外公演であるアヅマ・カブキ出演者へのインタビュー調査で、初代徳穂の人物像と舞踊に対する思想、さらに舞踊作品を通じた技術の継承についても調査することができた。

4. 研究成果

本研究では、日本舞踊家初代吾妻徳穂の生涯における舞踊活動をアーカイブ化するため、吾妻流事務所や国内外における現存する資料の収集と、初代徳穂の生前を知る関係者からのインタビュー調査を主軸に、初代徳穂の活動の軌跡をたどり、舞踊に対する思想の調査と、舞踊技術から見る初代徳穂の舞踊に対する意識の考察を行った。

まず、研究期間を通して行った国内の資料収集では、吾妻流事務所が保有する公演プログラムの資料整理に加え、記録映像、記録写真、音声記録を収集し、かつ、実際に初代徳穂の舞踊を閲覧することで、舞踊に対する熱量と活動の概要を窺い知ることができ、アーカイブ化の大きな柱となった。

初代徳穂の舞踊活動は、国内外で活発であり、特に舞踊活動の集大成となる「三趣の会」「徳穂の会」は高い評価を得ているが、2度に渡る海外公演アヅマ・カブキについての内容についてはあまり知られていなかった。しかし、本研究で実施した米国ロサンゼルス州への国外出張で公演プログラムや当時の写真の収集ができたことと、通訳兼出演者の参加者へのインタビュー調査が実現し、さらに、国内において、第1回に参加した演奏者へのインタビュー調査の実施により、文献には記されていない詳細な演出、また公演中の私生活、渡航スケジュールについても知ることができ、アヅマ・カブキの概要と公演内容を紹介できる記録を作成することができた。

また、国内出張において「吾妻流舞踊譜 第1輯」の収集と資料調査を行なった。これには長唄「蓬莱」の振書が書かれており、吾妻流で踊られる現行の「蓬莱」と比較しても差はなく、本資料が発行された時代から、変わることなく舞踊の振りが継承されていることが判明した。また、初代徳穂の孫にあたる日本舞踊吾妻流三世宗家二代目吾妻徳穂氏と、二代目徳穂の母（初代徳穂の義娘）吾妻花舟氏にインタビューを行い、本資料について尋ねたところ、舞踊譜が作られていたことも初耳で、その存在も知り得ぬものであった。従って、吾妻流でも忘れ去られた資料発見となった。

初代徳穂と同様、日本舞踊界を牽引してきた舞踊家に、初代花柳寿美や二代目花柳壽應がいるが、その生涯における舞踊活動と、それに伴う公演概要、さらには批評までを、研究者や門弟がまとめ、非売品の文献として発行しているが、初代吾妻徳穂の舞踊活動は未だなされていない。本研究では、アヅマ・カブキへの調査と「吾妻流舞踊譜 第1輯」の発見がアーカイブ化の大きな成果と言えるが、これは初代徳穂の舞踊活動一部にすぎない。従って、今後も継続した調査が必要であると考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西国領君嘉	4. 巻 20
2. 論文標題 「徳穂三趣」にみる初代吾妻徳穂の舞踊観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本大学研究員 報告書	6. 最初と最後の頁 11,16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西国領君嘉	4. 巻 25
2. 論文標題 初代吾妻徳穂の資料調査 吾妻流舞踊譜を求めて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Performing Arts Studies	6. 最初と最後の頁 19,23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西国領君嘉	4. 巻 19
2. 論文標題 「三趣の会」にみる初代吾妻徳穂の舞踊観	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本大学研究員 研究報告書	6. 最初と最後の頁 28,32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西国領君嘉	4. 巻 24
2. 論文標題 アツマ・カブキの資料調査 -第1回を中心に-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Performing Arts Studies	6. 最初と最後の頁 26,37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西国領君嘉	4. 巻 21
2. 論文標題 「京鹿子娘道成寺」にみる初代吾妻徳穂の舞踊観	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本大学研究員 研究報告書	6. 最初と最後の頁 30,36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西国領君嘉	4. 巻 18
2. 論文標題 「夫妻会」「定式舞踊研究会」にみる初代吾妻徳穂の舞踊観	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本大学研究員 研究報告書	6. 最初と最後の頁 22,27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西国領君嘉	4. 巻 17
2. 論文標題 春藤会からみられる初代吾妻徳穂の舞踊観	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本大学研究員 研究報告書	6. 最初と最後の頁 98,102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------